

カルデアの^{まきびと}牧人

～校長だより～ No.31

2 学期始業式

～承認欲求「人の役に立ちたい」～

2025.8.25 校長

1 学期終業式に皆さんに話したことを覚えていますか。

- ・ 他人との比較で自分を評価するのではなく、過去の自分と現在の自分とを比較して「できること」がどれだけ増えたのかで評価しよう。
- ・ 何かに挑戦し、「できること」を増やす特別な夏としてほしい。
- ・ 応援される人になろう。

この3つについて話しました。皆さんにとって挑戦の夏、特別な夏となりましたか。

7月下旬から8月にあった、全国高校総体、全日本ビーチバレーボール選手権大会、全日本吹奏楽コンクール県大会に選手・演奏者として出場した人にとっては特別な挑戦した夏となりました。そこで感じたこと、より高みを目指そうと決意したことなど収穫も大きかったと思います。

また、全国高校総体では選手以外に多くの生徒の皆さんが広報活動や大会補助員として運営側で活躍してくれました。全国大会の運営にかかわってどうでしたか。マニュアル通りに進むとは限らず、臨機応変な対応も必要だったと思います。私はレスリング会場で皆さんの姿を見ていました。よく気がつき、柔軟に動いてくれていたと感じました。バレーボール会場でもきっと同じように頼りになる存在であったと思います。ここでも特別な夏を体験し、皆さんの「できること」が増えたのではないのでしょうか。

8月4日のオープンスクールには120名の中学生とその保護者の方の参加があり、生徒会の皆さんや各部活動の皆さんの協力によって活気あるオープンスクールとなりました。協力してくれてありがとう。大変多くの中学3年生が皆さんと一緒に高校生活を送りたいとアンケートに答えてくれました。これも皆さんの後輩を思う気持ちと、皆さん同士の仲の良さが結果に表れているのだと思います。皆さんは人の気持ちを動かしたわけです。

人の欲求は5つに分類できるとマズローという心理学者は言っています。まずは、生理的欲求（食欲、性欲、睡眠欲など）次に安全欲求（わが身の安全の確保）そして社会的欲求（所属する安心、愛情を受けたい）その上に承認欲求と自己実現欲求があります。

このうち承認欲求とは、誰かの役に立ちたい、誰かに「ありがとう」と言ってもらいたいということです。ちょうど今回のインターハイ補助役員やオープンスクールでの活動はこ

れにあたります。社会的欲求までは自分の利益追求によって満たされるものですが、承認欲求からは相手の喜びのためにと対象が変わってきます。高次の欲求と分類されるのはこのためです。自分のできることが増えてくると、人の役に立つことも増えてきます。この自分にできることを増やすためには、頭で考えるだけではダメです。実際に経験することによって増えてくると思います。

さて、目の前に織部祭があります。この中で挑戦する場面はたくさんあります。1年生にとっては高校の学園祭の規模の大きさと自由さに驚くことでしょう。2年生は昨年を知っていますから、知恵を集めて昨年になかった工夫をしてくれることでしょう。3年生は最後の学園祭です。自分自身の中にある「やりたい」を言葉に出して、行動を起こしてください。大きなことをやり遂げるには一人の力ではかきません。2人、3人と人が関わることで、お互いの役に立つことで、より良いものが出来上がります。180人余りしか生徒はいませんから、お客さんの生徒はいません。手が空いたら「何か手伝うよ」と声を出し、自分の「できる」を仲間のために役立ててほしい。

2学期は織部祭のほかにも1年生コース選択、2年生修学旅行、そして3年生にとっては進路決定または、進路決定に向けての取組があります。目の前のことに全力で取り組むことで扉は開きます。皆さんが様々な場面で挑戦し、「できること」が増えたと2学期末に感じ取れるよう一緒に取り組みましょう。